

# 誌上 舞台 歌舞伎

江戸時代、初代坂田藤十郎によって創始された上方歌舞伎の芸風、上方和事は、荒唐無稽な江戸の荒事に対し、写実的リアリズム、情を表現する芝居である。その伝統を受け継ぎ、盛り立てていく関西期待のホープ、坂東新車さんに登場いただいた。音羽屋！

歌舞伎俳優



坂東新車(ばんどうしんしゃ)

音羽屋。門閥外から上方歌舞伎のベテラン俳優、坂東竹三郎に入門。平成10年大阪松竹座「ヤマトタケル」の舎人、熊襲の兵士にて初舞台。坂東竹志郎を名乗る。平成17年、坂東竹三郎の芸養子として、大阪松竹座「第二回浪花花形歌舞伎 車引」の杉王丸にて、四代目新車を襲名。平成18年咲くやこの花賞受賞。

歌舞伎俳優は役者の家に生まれた門閥と、国立劇場歌

舞伎俳優養成研修の卒業生がなれるのが基本です。そういう意味では私はかなり異質な経路で(笑)この世界に入りました。千葉の一般家庭に生まれ育ち、中学生の頃に役者になりたいという思いが芽生え、高校在学中にミュージカルのオーディションを受けて合格し進路を決めました。その後、プロダクションに入り日本舞踊を習った時に、日本の文化についていいな、時代劇に出たいと思ったのです。折しも市川猿之助さんのスパー歌舞伎「ヤマトタケル」のエキストラの仕事が入って、衝撃が走りましたね。出番がなければ帰ってもいいのですが、何ヶ月も朝から晩まで夢中で稽古を見ていました。そんな私に「あんた、芝居好きやねんなあ」と声をかけてくれたのが今の養父、

上方の歌舞伎役者、坂

東竹三郎でした。当時お弟子さんに空きがあり、歌舞伎のことを何も知らずに飛び込んだのが23歳。でもその時もまだ歌舞伎役者になれるとは思っていませんでした。父の家は日本舞踊、東山村流の家元でもあり、3年間みっちり踊りの稽古を積み、坂東竹志郎という名前をいただいて初舞台を踏んだのが26歳。遅いですよね(笑)。

歌舞伎の演技の勉強は女形の踊りから入るのが流れています。私は男を演じる立役ですが、立役でも女形の要素が身に付いていなければいけない役が上方和事にはたくさんあります。



「ええ役者やなあ」と言われるように

はんなりとして、匂い立つような色気があり情をストレートに出していく役が多い。よく「色気がない！」と肩をぱんとたたかれたり。色気ってなんなんだろうと(笑)。本当に難しい。だから自主公演では少しでも体に馴染ませるために、女形の舞踊を踊るようにしています。

平成17年に芸養子にさせていただき、父の前名の新車を襲名したときに、一生かけて上方歌舞伎を突き詰めていき、また次の代に引き継いでいかななくてはと決意を新たにしました。上方歌舞伎の活性化が私のエネルギーになっていて、同じく関西在住の片岡愛之助さんとは一緒に盛り立てていこうという話しています。封印切の忠兵衛、夏祭浪花鑑の団七郎兵衛、仮名手本忠臣蔵の勘平など、やりたい役はたくさんあります。

6月には大阪松竹座で藤山直美さんと『夢物語 華の道頓堀』のお芝居をさせていただきました。今回で3回目の共演ですが、最初は震えましたね(笑)。なにせ相手は日本一の女優さんですから。でも一生懸命やるから鍛えがいがあると思っただけなのでしょう。私も度胸がつかましました。今回は江戸の歌舞伎役者の役で、上方にやって来て注目を浴びますが挫折もあり、旅館の仲居役の直美さんが励ましてくれて...という物語。お芝居は歌舞伎で勉強してきたことを試せる絶好の機会でもあり、またお客様の反応を見て、お客様と相談しながらつくっていくという醍醐味もあります。関西のお客様の目は厳しいですから。好き、嫌いの反応がストレートに返ってくるし、良かった時の拍手の音が違いますから。

将来的には「ええ役者やなあ」と呼ばれるような、舞台に出てきただけで存在感や匂いがあり、内からエネルギーを発するような歌舞伎役者を目指しています。今日よりも明日、今日よりも来月の気持ちで芸を追求していきたいと思っています。

大阪松竹座6月公演  
『夢物語 華の道頓堀』  
平成23年6月5日(日)～28日(火)  
昼の部11時～、夜の部16時～  
※8、10、13、16、19、22、24、  
27、28日は昼一回公演  
一等12,600円、  
二等7,350円、  
三等4,200円



大阪松竹座  
地下鉄  
「なんば駅」  
14号出口  
徒歩約1分  
Tel.06-6214-2211  
http://www.shochiku.co.jp